

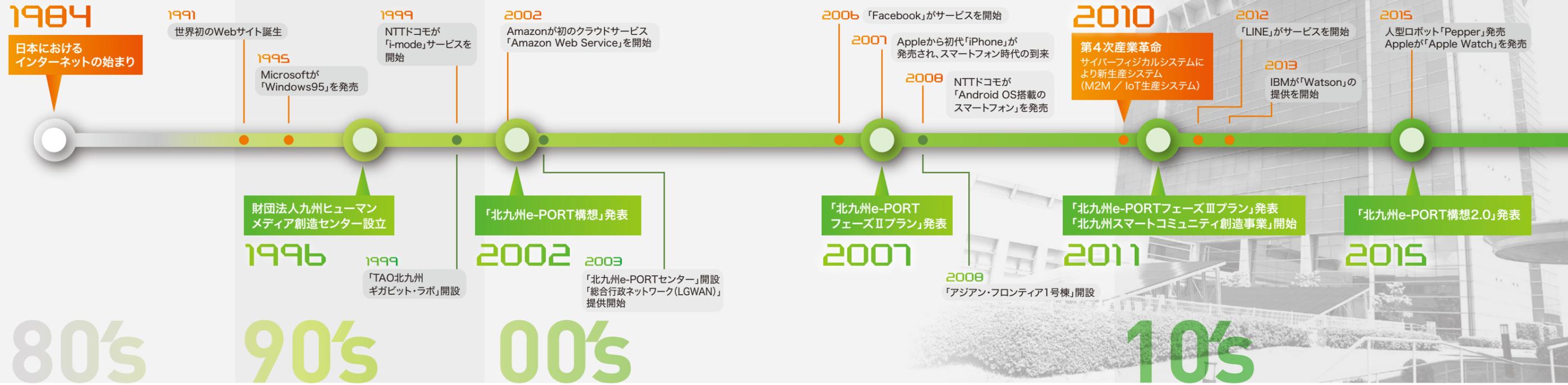
HU-DiA

VOL.26
Jun. 2017



IOT
新時代

インターネットと歩んできたヒューマンメディア財団



IoT新時代への流れ ～ネットワークとデータが創造する新たな価値～

ヒューマンメディア財団(正式名称:公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター)は、平成8年4月の設立以来、地域経済社会の発展に資するため、北九州地域を中心とした情報産業の振興に取り組み、様々な事業を実施しています。

日本のインターネットは、1984年に東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学が相互にコンピュータを結んだ「JUNET」から始まりました。1990年代後半には常時接続サービスの提供が始まるなど、普及へ向けての環境が整備され、21世紀を迎える前後、政府のe-Japan計画の後押しもあり、低額での常時接続サービスの展開が進み個人に至るまで急速に普及しました。

以降、ブロードバンド化、モバイル化、そしてクラウドコンピューティング化の流れは明確なものとなり、ICTの高度化が目覚まし

いスピードで進んできました。日々の暮らしや企業活動においても様々な場面でICTが利用されるようになった今日、ICTに求められるものも複雑かつ多様なものとなっており、ICTをいかに有効に活用するか、私たちにとって本当に価値のあるものにするかが問われています。

平成28年6月には、「日本再興戦略2016」が閣議決定され、その中でIoT(Internet of Things)、ビッグデータ、AI(人工知能)などの技術的ブレークスルーを活用する「第4次産業革命」が特に取り上げられ、社会的課題を解決し、消費者の潜在的ニーズを呼び起こし、新たなビジネスを創出するものと位置付けられています。

当財団では、こうした高度情報化社会や知識創造型社会の進展に対応し、地域情報化を強力に推進するために、情報化戦略である

「北九州e-PORT構想」の策定推進をはじめとするさまざまな事業を推進してきました。その成果として、西日本最大級のデータセンターが集積するほか、コールセンター、情報倉庫などのインフラ整備が進んできました。

また、「日本再興戦略2016」に掲げられた「第4次産業革命」の流れの中、新たな戦略としての「北九州e-PORT構想2.0」を策定し推進しています。特にIoTによる生産性向上や新たなビジネス創出に向けては、その取り組みが、経済産業省とIoT推進ラボが募集した「地方版IoT推進ラボ」にも、「北九州IoT推進ラボ」として選定されました。こうした活動により「地域IoT基盤の整備・活用」、「地域課題をビジネスの視点で解決するICTプロジェクト」を推進・支援し、地域情報産業の活力の増進を図り地域経済の活性化を目指しています。

「IoT推進ラボ」

IoT推進コンソーシアム(総務省・経済産業省・その他関係省庁が進める産学官が参画・連携し、IoT推進に関する技術の開発・実証や新たなビジネスモデルの創出推進するための体制)の下で、先進的IoTプロジェクトの発掘・育成に向けて、企業連携・資金・規制改革支援を実施するもの。

IoT新時代へ ～「北九州市IoT推進ラボ」



地域におけるIoTプロジェクト創出のための取り組み

「北九州市IoT推進ラボ」(第一弾)に選定されました!

北九州市IoT推進ラボ(地方版IoT推進ラボ)とは?

経済産業省が、地域におけるIoTプロジェクト創出のための取り組みを「地方版IoT推進ラボ」として選定し、IoTビジネスの創出を支援するものです。

地方版IoT推進ラボが目指すものは、まさに、「e-PORT構想2.0」そのものであるため、2016年6月の公募に応募し、同7月31日に第一弾として選定されました。(第一弾選定:全国29地域)

さらに、2017年3月13日には24の地域が新たに選定され、全国53の地域に拡大しています。



BENEFITS

- 特典1** 「地方版IoT推進ラボ」ロゴマークの使用権付与
- 特典2** 約2,000社のIoT推進ラボへの広報
- 特典3** 地域へのメンター派遣

+ 国の補助事業での採択確度アップ!

北九州スタジアム完成を見据えた にぎわい創出実証事業

2016年度「北九州スタジアム完成を見据えた にぎわい創出実証」に取り組みました！

中心市街地である小倉地区のにぎわいを創出する基盤(にぎわい基盤)として、小倉駅周辺に設置されている歩行者系サイン等に、様々な情報を発信できるビーコンと歩行者の流れを測定できるセンサーを設置しました。

これらのにぎわい基盤を通じて、お得なクーポンや地域のお知らせ情報などを発信し、ギラヴァンツ北九州が保有するコンテンツと連携したトレジャーハンティング(宝探し)により、スタジアム周辺と小倉城口エリアの回遊性を高めるとともに、スタジアムに集まる人の流れを見える化することで生まれる、新たなサービスモデルについての実証を支援していきます。

準備(開発、プレ検証)フェーズは完了し、2017年度は実環境での検証フェーズに移行していきます。

2017年度「北九州スタジアムにぎわい 創出実証」として実証を進めていきます！

2017年3月12日、北九州スタジアム(ミクニワールドスタジアム北九州)がグランドオープンしました。開幕戦となる試合当日は、J3史上最多の14,935人の観客動員を誇り、にぎわいが生まれる新たな場となりました。

街なかのにぎわいアプリ「くりだそう!北九州」には、大きく3つの機能があります。

① センサーによる断面交通量の収集結果

2/5(日)と2/19北九州マラソン(日)時、3/12グランドオープン(日)時のデータを比較



考察 ▶ イベントの効果が南口に波及していない → 課題再確認

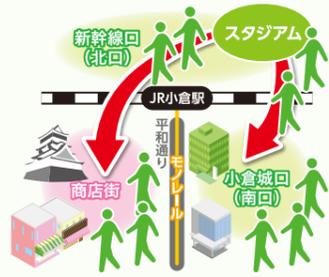
南北連絡通路の状況



考察 ▶ グランドオープン時、試合終了16:00台の増を確認

APPLICATION

街なかのにぎわいアプリ



- 実施主体
- にぎわい基盤構築コンソーシアム (安川情報システム、iD、九州工業大学)
 - にぎわい基盤活用アプリコンソーシアム (ギラヴァンツ北九州、安川情報システム)



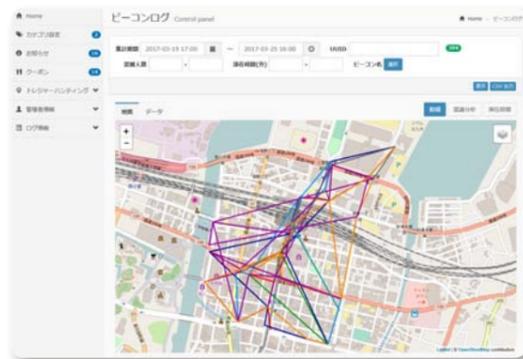
アプリトップ画面

FUNCTION

街なかのにぎわいアプリ 3つの機能

- 機能1** お知らせ機能。様々な情報を発信することができます。
- 機能2** クーポン機能。登録された様々な店舗が発行するクーポンを利用することができます。
- 機能3** トレジャーハンティング機能(宝探し機能)。小倉駅周辺を散策することで、様々なトレジャーをゲットすることができます。また、期間内にトレジャーすべてをゲットすると、抽選でさらに素敵な商品がゲットできます。

② ビーコンによる回遊状況の確認結果



考察 ▶ トレジャーハンティングによる回遊効果の確認



配信PRのほり

にぎわい基盤(ビーコン/センサー)



ビーコン
(防水防塵筐体)
幅100mm/
奥行き100mm/
高さ35mm
※電池駆動



センサー
(防水防塵筐体)
幅120mm/
奥行き160mm/
高さ91mm
※AC電源駆動

エリア拡大計画(案)

文化ゾーン(小倉城など観光スポット)にも回遊させ、街の活性化とビッグデータ分析等による多様なサービスの創出により、地域の創生に貢献していきます。



九州工業大学 PBL にて新たなサービスを開発中!

「先行モデル」から新たなサービスを検討

九州工業大学の学生に社会人のメンターを加えて、北九州スタジアムを活用した新たなサービスを検討する「アイデアソン」を実施しました。最終的に10個のアイデアに集約、人気投票を実施し、ブラッシュアップ、アプリの作成に取り組みました。



データ利活用促進の取り組み

独立行政法人 情報処理推進機構と 「IMIパートナー」協定を締結しました!

IMI(Infrastructure for Multilayer Interoperability)とは?

IMIは、電子行政分野におけるオープンな利用環境整備に向けたアクションプランとして、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が進める取り組みです。データに用いる文字や用語を共通化し、情報の共有や活用を円滑に行うため、文字情報基盤と共通語彙基盤により、行政サービスの相互運用性(Interoperability)向上を図っています。

UTILIZATION

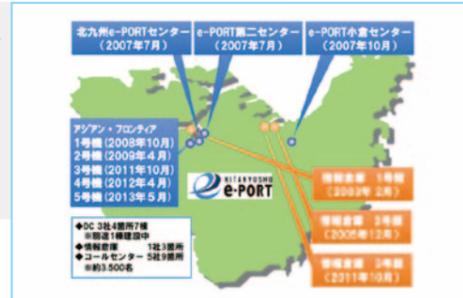


- 活用1** 情報連携に不可欠な各種情報やツール(機械処理可能な形式への変換)の提供を受けることができます。
- 活用2** ソーシャルデータ活用事例などを知ることができます。
- 活用3** IMIパートナーの成果を活用したり、全国規模で成果を展開することができます。

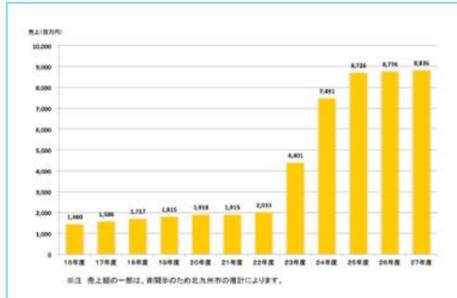
データセンター等地域のリソースを活用したビジネス創出支援

e-PORTによる集積の概要

- ・データセンター4か所
- ・情報倉庫1か所 (H26.3 1ヶ所に集約)
- ・年間売上8,766百万 (H27年度)



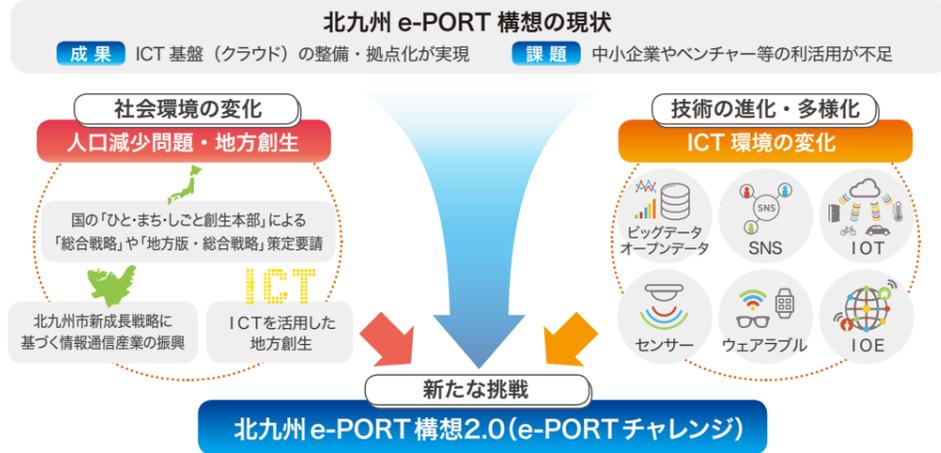
▲北九州e-PORT構想 フェーズI~IIIによる成果



▲e-PORTプラットフォーム集積調査結果(平成27年度末)

平成14年に策定し取り組んできた「北九州e-PORT構想」により、データセンターなどのICT基盤や人的ネットワークといった地域リソースの集積を行ってきました。これらの地域リソースを活用し、北九州の地域課題を解決しながらビジネス創出を支援する「北九州e-PORT構想2.0」を平成27年に策定し、活動を行っています。

「北九州e-PORT構想2.0」により創出したビジネスは、地方創世の成功モデルとして北九州から全国へ発信することを目指しています。



e-PORT2.0の全体構成

- 「e-PORTパートナー」「e-PORTコンソーシアム」「事業者」「北九州e-PORT推進機構」が中心組織です。
- ・「e-PORTパートナー」: 産学官民金の集合。事業を進めるため、事業者に対して、サービスの提供や支援、自ら事業者として事業を行う、いわゆる「会員」
 - ・「e-PORTコンソーシアム」: e-PORTパートナーを中心に、テーマ毎に結成される「ワーキンググループ」
 - ・「事業者」: e-PORT2.0の仕組みを利用して、自ら事業(地域課題解決やビジネス創出)を行う企業・団体等
 - ・「北九州e-PORT推進機構」: 「e-PORT2.0」全体を推進(管理・運営・支援)する組織(事務局)

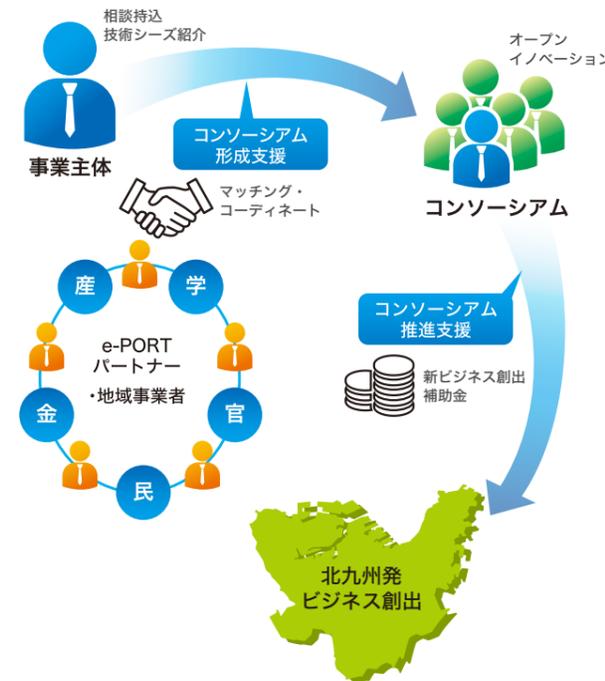


e-PORT2.0によるビジネス創出支援の流れ

e-PORT2.0では、新規ビジネス創出に取り組むベンチャー企業や中小企業、大企業によるR&Dなど、事業主体者を支援します。

事業主体者から北九州e-PORT推進機構への相談持込や技術シーズの紹介をもとに、産・学・官・民・金のe-PORTパートナーや地域事業者とのマッチングや実証実験のコーディネートなどを通じ、複数企業・団体による事業共同体(コンソーシアム)の形成を支援し、オープンイノベーションを促進します。

こうして形成されたコンソーシアム内での実証実験やビジネスモデルの確立に利用可能な「新ビジネス創出支援補助金」の交付などを通じて、事業化をサポートします。



調査研究支援・実証支援補助

上限 100万円
(補助率2/3)

北九州地域において、将来的にビジネス化することを見据えた調査、研究、実験、実証等の取り組みを支援

対象事業者 個人・企業・団体 or コンソーシアム

事業化支援補助

上限 500万円
(補助率2/3)

北九州地域において、新ビジネスの創出に必要な商品やサービスの開発、ビジネスモデルを確立するための仕組みの構築等を支援

対象事業者 コンソーシアム

採択の基準

- e-PORT2.0適合性
- 市場への適合
- 計画性・実行可能性
- 将来ビジョン

事業の流れ

- 申請・事業説明
- 審査・採択
- 事業実施・報告
- 補助金支払い

EVENT

ITpro Expo2016 in 九州

日時 平成28年6月1日(水)・2日(木) 場所 福岡国際会議場

e-PORT2.0の仕組みや創出された事例、パートナー企業のビジネス拡大支援のため、九州最大級のICTイベント「ITpro Expo2016 in 九州」に出展しました。

また同時に、「課題先進都市:北九州市で、御社のビジネスを試してみませんか」というタイトルでセミナーを実施し、e-PORTの取り組みを紹介しています。

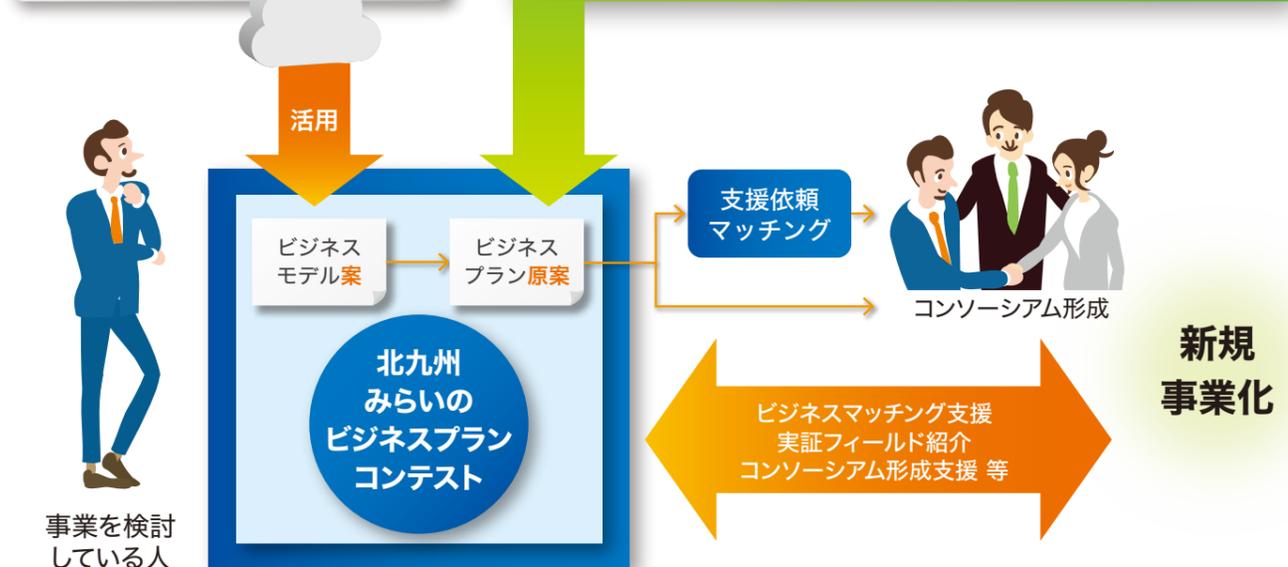
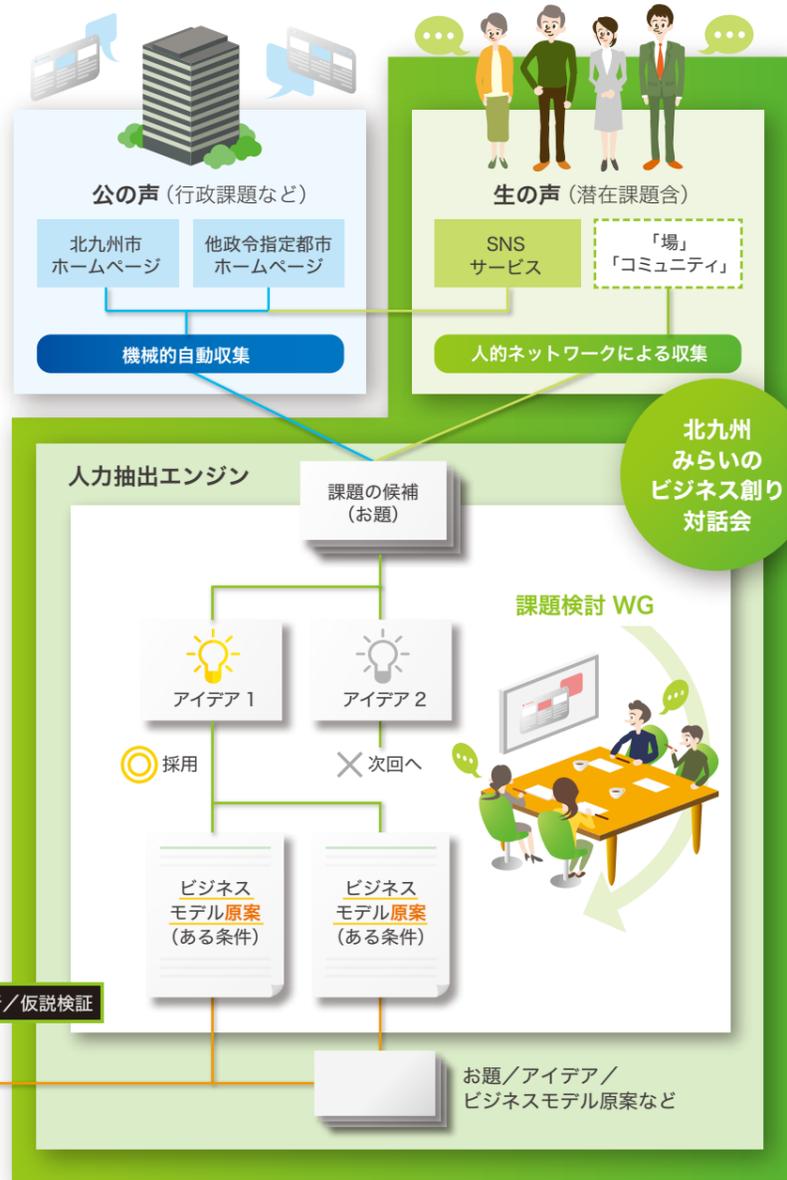


北九州みらいの ビジネス創り対話会とは

地域課題の発掘・収集を行い、ビジネスモデル原案に導くために、対話の中から生まれる気づきやアイデアを具体化していくことで、ビジネスのテーマを特定し、具体化しようとするものです。「北九州みらいのビジネス創り対話会」を開催し、全6回、のべ336名の方々に参加いただき、みらいのビジネス創りに向けて熱心な対話が行われました。

対話会は、提起されたテーマ11件のうち9件が、ビジネスモデル・キャンパスに具体化され、みらいのビジネスへの卵となりました。対話会イベント終了後も、共感するメンバー同士が自主的に集まり、引き続き議論を深めています。

また、北九州地域の未来を創造するビジネスプランをテーマとする「北九州みらいのビジネスプランコンテスト」を実施、この対話会で提起されたビジネスモデル原案のほか、広くビジネスプランを募集し、継続的な支援を行うことで地域課題の解決を目指していきます。



事業を検討している人

北九州みらいのビジネス プランコンテスト2017

様々な地域の課題をビジネスの手法で解決するためのビジネスプランを募集し、実現に近づけていくために、「北九州みらいのビジネスプランコンテスト2017」を開催しました。応募されたビジネスプランは、「北九州みらいのビジネス創り対話会」からの7件を含めて、総数23件の応募があり、現時点で必ずしもビジネスとしての出口が明確でないものから、近い将来ビジネスにつながりそうなプランまで、幅広いテーマとアイデアあふれる内容のプランが集まりました。

産学官民金からの審査員の厳正な審査の結果、一次審査(書類選考)で10件(内、対話会から3件)、二次審査(プレゼン)で5件(同1件)のプランが選ばれ、3月のe-PORTパートナー交流会でのファイナルプレゼンでグランプリ/準グランプリおよび各企業賞が決定しました。

財団としては、今後、これらのビジネスプランが現実のビジネスにつながるようサポートしてまいります。

☑ BUSINESS PLAN CONTEST

1次書類審査、2次プレゼン通過タイトル

応募者名	ビジネスプランタイトル
無添加ハウス	尿モレに悩む女性の生活の質(QOL)を改善し、女性が楽しく元気に活動できる北九州に!
エアテック株式会社	ドンレンタイムーハルブを用いた最先端で環境によい工場デザイン
土川 陽子	[庭でもできるアワビの養殖]~地域の資源と地域の力、上手に使ってみんなでwinwin~
株式会社桃源舎	「コルホネス」でハッピーネス!
ハビクロ(ハッピークロス)	黒崎の地域資源を活用した、親も子も住民も喜ぶ託児所づくり





次世代を担う若い
技術者育成をめざして



中学生・高校生を対象とした研修では、アプリやゲームのプログラミング、映像編集やWebサイト作成など、身近なジャンルでのICTを使ったものづくりの楽しさを体験しながら、「創造する力」「つくる技術」を習得し、次世代のICT社会を担う若手人材の創出と育成を目指しています。



EVENT

中高生のための IT キャンプ 2Days@ 北九州市

日時 平成29年3月4日(土)・5日(日)
場所 西日本総合展示場 新館 会議室

中学生・高校生のためのプログラミング・IT キャンプを運営するライフイズテック株式会社による、プログラミング、アプリの開発、デザイン、ゲーム開発等を体験学習する2日間のコースを開催し、43名の中高生が参加しました。アクティビティでは、北九州市の協力によって、完成したばかりのミクニワールドスタジアムを見学しました。



ものづくりの街・北九州で、新しいデジタルものづくりの裾野を広げていくため、多くの可能性を秘めている子どもたちを対象に、論理的思考力や想像力を育てることを目的とした、デザインやプログラミングの講座を開催しています。



EVENT

夏休み!子どもデジタル教室

日時 平成28年8月18日(木)・19日(金) レーザーカッター工作教室
8月24日(水)・25日(木) Scratchプログラミング教室
場所 西日本工業大学 地域連携センター 小倉キャンパス

西日本工業大学、西南女学院大学短期大学部と連携し、小学生4年生から中学生を対象に、PCソフトでデザインした画像をレーザーカッターで加工する工作教室と、パズルを組み合わせるような感覚でプログラミングができるグラフィカルな言語「Scratch(スクラッチ)」を使ってゲームを作成するプログラミング講座を開催しました。





ICTを活用した
新サービス創出と
コミュニティ支援



ICTの活用による
農業支援

最新技術や今後成長や普及が見込まれる分野において、コアメンバーとなる事業者・団体等の主導でのハンズオンセミナーや講座の開催支援を行っています。

また、北九州地域でのコミュニティづくりや風土づくりなどの支援を行うことで、異業種や異分野の人材による継続した連携・活動を促し、そのコミュニティからの新規事業立ち上げや創業などを目指しています。

☑ BUSINESS REPORT

28年度事業報告

- 主催セミナー
 - ・GISを業務に活かすハンズオンセミナー&ワークショップ3Days
 - ・Azure×WordPressハンズオンセミナー
- 共催セミナー
 - ・BIツール「Tableau」ハンズオンセミナー
 - ・Selenium+Jenkinsを使ったWebテスト自動化ハンズオンセミナー
 - ・OpenDataDay2017

☑ EVENT

GISを業務に活かすハンズオンセミナー&ワークショップ3Days

日時 平成28年12月7日(水)、平成29年1月12日(木)、2月2日(木) 場所 fabbit

位置に関するデータや情報を視覚的に表示させる「GIS(地理情報システム)」を使用しながら、測量などの業務に活かしたいと考えるかた、GISを使用したサービスを提供したいエンジニアのかた、すでにGISを使用しているかたなどが、グループワークをしながらプロトタイプを作成。4つのチームが実際の業務に役立つサービスを発表しました。



Azure x WordPress ハンズオンセミナー

日時 平成26年3月26日(日) 場所 まなびと ESD ステーション

北九州地域においてエンジニアを志望しながらも最先端の技術および技術者に触れる機会が少ない高校生・大学生を対象としたハンズオンセミナーを、北九州地区のWeb技術者コミュニティ「Webっちゃ!」と共同で開催しました。



農業分野、とくに、個人農家や中小の農業法人には、ICTが浸透していないのが現状です。このプロジェクトでは、ICTを農家に浸透させることによって、もうかる農業・楽しい農業を追求しています。

今年度は、中小農家応援ツール「えいのうのいえ」のサービス主体となる地元ICT事業者と農業関係者でコンソーシアムを構成し、実証実験の後、市場展開を行います。

事業報告

財団主体の、農業ワーキンググループにより、中小農家向けの経営支援システム「えいのうのいえ」の、サービスモデルを検討し、プロトタイプによる実証試験を行いました。また、財団主催のセミナーや広報活動を通じて、市場調査とニーズを探求、主体事業者と協業により事業計画を策定、次年度からのサービス化への向けて足掛かりとしました。

【えいのうのいえ】とは?

家族経営などの中小の農家さんでも、とてもかんたんに使えてとても役に立つアプリケーションです。「えいのうのいえ」には、

- ・営農日誌&収益見える化ツール(えいのうのいえー1)
- ・地産地消型の野菜流通支援ツール(えいのうのいえー2)

本事業の年度総括発表と事業者間のつながりを活性化するための、農業×ICTマッチングセミナーを開催しました。

☑ EVENT

インターネットでつながる街と農!
～黒崎の街「合馬のたけのこピザ祭り～」

日時 平成28年4月29日(金)～5月8日(日) 場所 黒崎商店街内 ピザ店

地元野菜流通サイト「えいのうのいえ」を活用し、黒崎の商店街で地元野菜を使った料理を提供しました。「地元農家・飲食店が元気な北九州!」を目標に、地産地消の推進、北九州の農産物ブランドの向上、街の活性化を推進するためのコラボイベントとしてを開催しました。

農業×ICTマッチングセミナー in 北九州

日時 平成29年3月13日(月) 場所 アジア太平洋インポートマート(AIM)

「農業から地方活性化を考える」と題して、流通改革・ブランド化・6次産業化へのヒントとなる、先進農業の事例を紹介しました。



ICTを用いた薬に関するリスクの低減と残薬削減のプロジェクト

処方薬の多剤・重複投与防止・残薬削減は、高齢化が進む日本においては早急な取り組みが必要な課題ですが、決め手となる改善の仕組みが見いだせていない状況です。

当財団では、ICTを活用することで、医療関係者による情報共有を図り、さらに保険者及び患者の医療費負担軽減、投薬による被害防止のためのプロジェクトを計画しています。このしくみを北九州発の全国的な取り組みとなることを目指し、ICT事業者・薬剤師、医療関係者・保険者からなるコンソーシアムを形成し、活動を開始する予定です。

事業報告

28年度は、ヘルスケアをテーマとした勉強会を実施し、事業モデル策定に必要なICTのサービス化に向けて、有識者やICTサービス事業者と有効性について検討を重ねてきました。

このなかで、厚生労働省が推進している、「薬に関するリスク低減と医療費削減に向けた診療ポイントの改定」に着目し、ICTを活用した、地域包括ケアを目指した、かかりつけ薬局を支援する仕組みについて、関連する事業者と協業して、サービスモデルを作成し、29年度から本格的に取り組むための「コンソーシアム」推進のための基盤を整備しました。



認知症高齢者徘徊対策事業

平成28年度にSkeed社との協業にて実証を行った、徘徊者見守りシステムを用いたサービスが製品化が決定し、本年度は市内の介護事業所への導入及び、広報活動により、サービスの定着を図ります。

平成29年秋からは、介護事業所周辺において、新しい通信規格920MHz帯を採用する長距離通信(1km程度)が可能な中継装置を配置し、実証実験を開始予定です。

事業報告

■引き続き小倉南区守恒校区での見守りシステム実証実験
 平成28年7月 守恒校区において実証実験への参加者を募る説明会にてタグの無償配布を行いました。

平成28年11月～2月 第一交通産業株式会社にご協力いただき、タグと、徳力営業所のタクシー30台に設置した車載中継装置(受信機)を利用した見守りシステムの実証実験を実施しました。

平成28年2月 「第5回守恒校区徘徊模擬訓練」をもって実証実験を終了しました。

見守りシステムの他地域への横展開

平成28年9月 八幡西区東折尾の長崎自治区において、自治区会と介護事業所が共同開催する「行方不明者捜索模擬訓練」において、介護事業所を中心とした新たな実証環境による技術検証を実施しました。



未来をひらく
デジタル
コンテンツ

大賞/くらまの火祭 谷 馨介

「北九州デジタルクリエイターコンテスト」は、映像、CG、アニメ、静止画、WEB、インスタレーション、ガジェット、マンガ作品など、幅広いジャンルを受け入れており、多彩な作品が一堂に集まり、お互いを刺激しながら新たなムーブメントを生み出すことを目的としています。

「北九州デジタルクリエイターコンテスト2017」では「光・音・数の身体性 Embodiment of Light, Sound, Numbers」をテーマとして、全国から191点の作品応募があり、各ジャンルと審査員賞をあわせて11作品の入賞が決定しました。



INTRODUCTION



宝珠山 徹
 西日本工業大学デザイン学部
 准教授

「北九州デジタルクリエイターコンテスト」[略称:KDCC]は、「アート、デザイン、テクノロジー」の関わりから生成する、新たな時代の意識・生活・文化・社会・芸術・学術・教育・産業に携わる人材の創出・育成、メディア芸術の振興・発展を通して、ゆたかな市民社会の形成・実現に寄与することを目的として開催されています。11回目となる今回のコンテストでは、「光・音・数の身体性」をテーマに、日本及びアジア、ヨーロッパから191作品のご応募をいただき、厳正なる審査の結果、入賞作品11点、入選作品30点が選ばれました。ご参加いただいたクリエイターの皆様、ご支援・ご協力いただきました関係各位のさらなるご活躍をお祈りしつつ、まだ見ぬ新たな社会の可能性をもとめて、ここ北九州から夢を実現していく力を育てていきたいと考えています。



役員 [8名] 平成29年6月1日現在 (役職順・50音順)

▼代表理事

松永 守央 公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター 理事長

▼理事

二郎丸 聡夫 北九州商工会議所 事務局長

原田 信弘 北九州工業高等専門学校 校長

廣瀬 香 一般社団法人九州経済連合会 社会基盤部長

松尾 太加志 公立大学法人北九州市立大学 学長

富高 紳夫 北九州市 産業経済局 企業立地・食ブランド推進担当理事

▼監事

石井 佳子 北九州市 会計室長

間 芳則 日本テレコムインフォメーションサービス株式会社 代表取締役

評議員 [8名] 平成29年6月1日現在 (50音順)

網岡 健司 特定非営利活動法人里山を考える会 理事

尾家 祐二 九州インターネットプロジェクト 会長

柴田 悟 株式会社安川電機 人事総務部 総務部長

下川 徹 株式会社高田工業所 社長付 地域・経済連携官掌

東 敏昭 学校法人産業医科大学 学長

廣渡 健 九州電力株式会社 執行役員北九州支社長

前原 典幸 TOTO株式会社 総務本部長

村上 公幸 西日本電信電話株式会社 北九州支店長

賛助会員 [24団体名] 平成29年4月1日現在 (50音順)

株式会社エリアサービス

株式会社北九州銀行

北九州商工会議所

新日鉄住金ソリューションズ株式会社

株式会社スピナ

セイコーエプソン株式会社

株式会社ゼンリンデータコム

ソニービジネスソリューション株式会社

ソフトバンク株式会社

株式会社ソルネット

データキューブ株式会社

TOTO株式会社

株式会社西日本シティ銀行

株式会社日鉄コミュニティ 九州支店

日本電気株式会社 北九州支店

早原特許技術事務所

株式会社ビーフロント

ビズ・コレジオ株式会社

株式会社日立製作所 九州支社

富士通株式会社

安川オピマス株式会社

安川情報システム株式会社

株式会社ロココ

株式会社ワンビシアークイブズ 九州支店

ACCESS JR八幡駅から徒歩5分

公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター (略称: ヒューマンメディア財団)
〒805-0071 北九州市八幡東区東田1丁目5番7号 TEL 093-663-2950 FAX 093-663-2955

